



古典の享受 —特別集書『伊勢物語和歌注』と図書館展示によせて—

国文学科 専任講師 松本 大

平安時代に成立した『古今和歌集』『伊勢物語』『源氏物語』『和漢朗詠集』等の代表的文学作品は、成立以降、後世に大きな影響を与えながら各時代で享受されていきました。その影響は、物語・随筆・和歌・連歌といった文学の領域に留まらず、有職故実・絵画・音楽・能・華道・香道といった多種多様な領域にまで及んでおり、日本文化の諸相と深く関わっていると言えます。

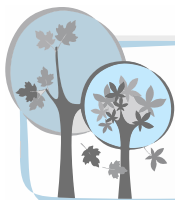
ただし、後世において、平安時代の文学作品は、必ずしも原典が直接参照されていたわけではありません。特に鎌倉時代以降の享受については、原典そのものよりも、むしろその作品の注釈書や梗概書が利用される傾向が強くなっていきます。この意味で各作品の古注釈書や享受資料は、原典と同列に扱うべき重要な資料と位置付けられるのです。

こういった享受の一端を垣間見せる資料として、平成28年度の特別集書では『伊勢物語和歌注』を購入しました。本書は、『伊勢物語山口記』として知られる『伊勢物語』の注釈書です。作者は連歌師・宗祇（1421～1502）であり、成立は奥書から延徳初年（1489）頃とされています。本書の書写年代は正確には明らかではありませんが、室町後期（天文頃か）と認められます。『伊勢物語山口記』の現存伝本は少なく、なかでも奈良大学蔵本は室町期の古写本としても貴重な存在です。

この特別集書に関わる企画展示として、7月上旬より「古典と向き合う—伊勢物語・源氏物語・百人一首の享受世界—」が開催されます。『伊勢物語』『源氏物語』『百人一首』の三作品を取り上げ、普段なかなか目にすることのない、享受に関わる資料を展示します。作品世界の広がりや、多種多様な享受世界を、実際の資料を通して知ることが出来ます。各時代の人々が、どのように古典作品に関わってきたのか、その息づかいを、是非、直接感じてみてください。

古典文学作品は、作品のみが現代まで伝わってきたわけではありません。作品を読み、書き写し、分らない箇所注釈を加え、時には新たな作品へと再生産されることもありました。現代まで残っている古典文学作品は、過去の人々が脈々と受け継いできたものであり、彼らの営為がなければ現在では目にすることが出来なかった可能性もあります。現代まで作品を伝えてくれた各時代の先人達に感謝しつつ、現代の我々もこれから先の時代に作品を伝えていかなければならないと考えています。

図書館企画展「古典と向き合う—伊勢物語・源氏物語・百人一首の享受世界—」は、2階展示室において、平成29年7月7日（金）～9月21日（木）の会期で開催します。



図書館でビブリオバトル 再び (5/15)

前年度に引き続き、奈良大学ビブリオバトルサークル「文草」^{ふぐるま}との共催で、図書館3Fグループ学習エリアにてビブリオバトルを開催しました。

4名のバトルーと観戦者7名の投票により、「車谷長吉の人生相談」が今回のチャンプ本に！

大森望『時をかける恋 不思議の扉』 …3票

中沢啓治『はだしのゲン』

☆車谷長吉『人生の救い：車谷長吉の人生相談』 …6票 チャンプ本

西尾維新『刀語』 …2票

バトル本は全て貸出可能です

「時をかける恋 不思議の扉」

913.68/F96

「はだしのゲン」

726.1/N46/1-10

「人生の救い：

車谷長吉の人生相談」

914.6/Ku79

「刀語」

913.6/N86/1-12



「車谷長吉の人生相談」を語るバトルー
その場の多数に“何それ読んでみたい”と思わせたらチャンプ

学生選書に行ってきました (6/10)



奈良大学図書館初の試みとして、学生の手で購入図書を選ぶ「学生選書」を実施しました。ならファミリー4Fのジュンク堂書店へ、5組6名の参加で、購入図書は69冊。図書館の入口フロアにコーナーを設置していますので、ご覧下さい！

多読超入門「多読のススメ」-(5/22~5/26)

語学学習といえばどんなイメージでしょうか？

単語を暗記して、文法と構文を覚えて、英文和訳をして、、、
英語といえば、大変な思い出しかない！

でも、授業でも英語をしなくちゃいけないし、就職活動では TOEIC も必要だって聞くし、どうしたらいいの？

そんな経験はありませんか？

そこで、**多読**という方法を試してみませんか？



という呼びかけにはじまり、5月22日～26日の期間、図書館2Fの多読図書コーナーにおいて、英語多読図書のスターターガイド **多読超入門「多読のススメ」** が、教養部の西出公之教授、山本尚子准教授により開催されました。

やさしい英文をたくさん読むことで、無理なく英語に親しむのが英文多読の手法です。

「辞書をひかずに読み進める」
「分からないところはとばす」
「あまりにも分からない時は、もっと易しいレベルにする」など、基本的な考え方や、シリーズごとの特色が説明されました。



西出教授による「多読のススメ」最終日(5/26)は4名が参加期間中、学部生・院生合わせて10名が参加してくれました

奈良大学図書館は約3000冊の多読図書を所蔵しています(2017年6月時点)。

英語圏の初等レベルのシリーズや、小説を多く収めたシリーズ、映画のストーリーを多くそらえたシリーズ、ノンフィクションがメインのシリーズなど、種類も豊富。気軽に手にとってみて下さいね。

難易度を知るためのガイドとして、読みやすさレベルの表(山本先生作成)や、主要シリーズのタイトルごと語彙数を示したファイル(西出先生作成)も多読図書コーナーにあります。

Let's Enjoy English!

多読のススメ・Vol.2 や、多読中級篇(仮)を検討中です。
開催は Web ページや掲示でお知らせします。

図書館統計（2017年3月末）

平成27年度後半から入館ゲートでのセキュリティチェックを強化したことが入館者数の減少に影響しているとみられます。その一方で、貸出は微増しました。

日本考古学協会図書の寄贈受入が進んだことから、蔵書冊数は53万冊を超えました。

年度	平成27年度	平成28年度	増減
開館日数	273	273	0
入館者数	107,653	89,650	▲ 18,003
図書所蔵数	495,389	531,168	35,779
雑誌タイトル数	6,403	6,406	3
貸出総数	41,770	42,368	598
内 学生※	38,158	37,343	▲ 815
相互協力利用(依頼)	435	376	▲ 59
相互協力利用(受付)	758	899	141

※通信生を含む

図書館展示報告（平成28年度）

図書館展示室では平成28年度に下記のテーマで企画展を開催しました。

企画から設営、ポスターやパンフレット作成まで、ご協力いただいた先生方、サークルの皆さんに深く感謝いたします。

今後も奈良大学の特色を生かした企画展示を実施してまいります。

回	テ マ	企画、共催（部活コラボの場合）	会 期
1	「旅に出よう」（部活コラボ）	サイクリング倶楽部、たびてつ、ユースホステル部、ワンダーフォーゲル行道会	4月19日～5月26日
2	「四庫全書、そしてその後」	森田憲司先生	6月10日～7月17日
3	「奈良大学所蔵資料にみる幕末維新」	村上紀夫准教授、史学科有志	7月26日～9月24日
4	「日本、再発見」（部活コラボ）	美術部、地理学研究会、城郭研究会	11月16日～3月22日

◎また、このほかにも多数のミニ展示を実施しました。

Welcome to 奈良 4/2～6/3

レポート対策 6/6～3/15

伊勢物語と歌註のお披露目展示 7/25～8/7

真田丸模型 7/29～12/28

Let's Enjoy English! 10/12～5/11

秋の夜長に夏目漱石 11/16～1/12

漱石と近代の出版 1/16～6/21

後 記

図書館報「みささぎ」25号をお届けします。

巻頭言にご寄稿いただきました国文学科の松本大先生、イベント共催のビブリオバトルサークル「文車」の皆さん、学生選書に参加いただいた皆さんに感謝します。学生選書の詳細は次号に掲載します。次号は2018年1月頃に発行の予定です。（編集担当）

発行：平成29年7月28日

編集：奈良大学図書館 奈良市山陵町1500